

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	みやき町立北茂安中学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	・将来への夢や進路の目標をもっている生徒は目標の80%を超えることができた。志を高める教育は、ほぼ達成できたといえる。 ・挨拶ができている生徒や道徳教育が役に立っているという生徒の割合も80%以上の目標を達成できた。心の教育は、概ね成果が出てきているといえる。 ・学習への取り組みが不足しているため学習の成果は目標を下回っている。教科それぞれの指導の工夫と保護者や地域と連携した取組で、学習効果の向上を追求していく。
------------------	---

2 学校教育目標	「知性・感性・耐性」を自らたかめる生徒の育成 ～「かしこさ」「よさ・やさしさ」「粘り強さ・たくましさ」をめざして～
----------	--

3 本年度の重点目標	① 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる。 ② 道徳教育等により、豊かな心を育てる。 ③ 生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す。 ④ 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める。 ⑤ 安心安全で生徒が明るく活動する環境を作る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

共通評価項目									主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・教科担当者が校内研の「授業づくり部」の取組にしたがって、 ①「授業づくりのステップ1・2・3」のステップ3に沿った授業展開をする。 ②生徒が見通しをもちたり、振り返りができる単元計画を作成する。 ・学年ごとに家庭学習方法を提示して、生徒の学習意欲を伸ばす。 ①学年と各教科担当が連携し、計画的な課題(宿題)を出す。 ②各学年のテスト計画表を比較検討し、新しい計画表をつくり、徹底させる。	B	・教師の学力分析を生かし、授業に反映させられたのは75%だった。 ・家庭での家庭学習への協力依頼を小学校と連携して取り組んだ。 ・学習文化委員会の取り組みとして、テスト対策となる問題を作成したり、学級対抗の形を仕組んだことで生徒の意欲を高めることができた。 ・学力向上対策評価シートのマイプラン達成については目標設定はできた。中間評価後8割程度の職員が目標を達成している。	B	・コロナの影響、リモートなどが言われている中、70～80%と達成できているのは職員に頑張っていたからだろう。よく取り組んでもらっていると言える。	学力向上担当 指導法改善担当 教務	
	◎学びを支える目的意識や学習意欲の向上	◎目的や目標をもって学びに取り組んでいる生徒80%以上 ◎家庭学習を毎日1時間半以上する生徒70%以上	・校内研究の各部会と教科部会や学年会を通して、授業改善や学習環境に関する課題解決の取組をする。 ・委員会活動の一環として、生徒が自主的に学習するような取組を増やすとともに、生徒の実態を把握し、個に応じた学習課題を提示する。 ・家庭学習の重要性や効果的な学習方法を、学活や学年集会、保護者会などの機会を捉えて的確に伝える。	B	・12月学校評価保護者アンケート「学校は、生徒に夢や目標を持たせる教育を行っている」は、97%、生徒アンケート「先生は授業を工夫し、分かりやすく教えるように努力している」では、90%を超えている。 ・12月学校評価保護者アンケート「先生は学習意欲を高める努力をしている」は、91%と高い。しかし、「お子さまは、家庭学習を毎日1時間半以上している」は、44%と低く、生徒アンケート「家庭学習を毎日1時間半以上している」では、9月調査、12月調査ともに6割程度である。	B	・ITを活用した自宅学習方法を提案する。 ・SNS、ゲームなど情報端末利用に時間にとられていることが調査からもわかる。家庭学習に向かう環境づくりに、保護者の責任も大きい。	進路指導担当 校内研究担当	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業が役に立っているという生徒80%以上	・道徳授業の年間計画を教科横断的なカリキュラムマネジメントの視点で見直す。 ・TTや輪番による授業を計画し、「伝え合う」場面の工夫、適切な見取りによる評価を行う。	A	・学年の職員が協働して道徳のTT授業、輪番授業を計画的に実践できている。 ・中間アンケートによると、道徳の授業が役立っているという生徒は81%だった ・道徳の評価についての研修を行い、評価について全職員で共通理解を図った。	A	・前回10月に参観したときより落ち着いた授業の雰囲気だった。道徳教育の効果が上がっているのではないかと。	道徳教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒90%以上	・いじめの未然防止のため、人権啓発に関する話やいじめ防止につながる話を、担任等が月に1回以上授業等で行う。 ・隔週でアンケートを行い、生徒の抱える問題を早期に発見し、早急にチームで対応する。	B	・いじめの覚知及び認知についての職員の全体研修会を行った。いじめの未然防止に向けて、密に情報交換を行った。 ・隔週での生活アンケートを滞りなく行うことができた。 ・学校がいじめ防止に取り組んでいると思う生徒が89%であり、90%以上を達成できなかった。	B	・いじめを目撃しても「チクった」と思われるのが怖くて、相談できないのではないと思う。アンケートも受け取り方が人それぞれなので、具体例を挙げて情報を収集することも必要である。 ・配慮を要する生徒に対して、周囲の生徒が理解して支援してくれていると感じる。	人権・同和教育担当 生徒指導担当	
	○「耐性」を高める教育の実践	○難しいことやつらいことに粘り強く取り組んでいる生徒80%以上	・日常の学校生活の中で、身だしなみの徹底、自問清掃の強化、時間を守る、あいさつをする、学習習慣の定着、に力を入れる。 ・部活動を、「忍耐力や向上心を培い、達成感や成就感を味わう」ことのできる教育的意義をもつ活動ととらえ、全職員で取り組む。	B	・生徒会活動として、身だしなみや自問清掃、2分前着席をきちんとさせるための取組を行い、生徒たちの意識が向上した。また、職員の共通理解のもと、全職員で随時指導を行った。 ・部活動においても全職員で関わり、粘り強く指導を行った。 ・難しいことやつらいことに粘り強く取り組んでいると答えた生徒は73%で目標にもう一歩である。	B	・何故取り組まなければならないのか、という根本的な指導が必要になってきたと思う。	特別活動担当 学年主任	
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・毎月1日、20日の、朝の交通指導を確実に実行し、振り返りを共有する。 ・交通教室や下校指導週間を設定し、交通マナーの向上を図る。 ・定期的な自転車の安全指導および自転車点検を実施する。	B	・朝の交通指導、下校指導を行いながら、違反等を減らすように努力している。急スピードで登下校している生徒に粘り強く指導をしていく必要がある。また、下校途中に近隣住民に迷惑をかけることもあったので、継続指導を行わなくてはならない。 ・自転車の点検を複数回行うことができたが、常時点検をしていく必要がある。 ・自転車による軽度の接触が年度前半に4件あった。並進防止、一旦停止の順序について今後も指導を継続する必要がある。	B	・加害者になった時の負担額を具体例に挙げ、「何故そう言う事態になったのか」を生徒と一緒に考え、そうならないように改善策を話し合うことが大切である。 ・下校中の生徒と出会うが、よく車をよけてくれる。ケガや事故がないようにこれまで通り指導を継続していただきたい。	安全教育担当	
	○感染症予防対策の徹底	○新型コロナウイルスの校内感染を0(ゼロ)にする	・密閉した空間、密集した状態、密な接触を回避した環境をつくる。 ・放送や掲示物により、感染症に対して正しい知識をもたせる。 ・消毒液の設置、施設の消毒などを行う。 ・毎朝の検温、石けん手洗い、マスク着用の徹底を周知する。	A	・手洗い、換気、マスク着用等の予防の取組により、生徒や教職員が罹患することはなかった。(1/19現在) ・手洗い、換気の徹底により例年流行するインフルエンザについても罹患者はみられなかった。	A	・新型コロナワクチン接種が16歳以上となっていることからマスク着用や消毒の徹底をこれまでのように継続していただきたい。 ・ほとんどが液体石鹸代わっていたが、固形石鹸が残っているところがあった。感染対策の上から、液体の消毒・石鹸液で対応して欲しい。	保健指導担当 保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・報道相を徹底し、無駄な時間をつくらない。 ・優先順位を分ける習慣を身につけさせる。 ・タイムマネジメントの研修を行い、勤務時間の適正な自己管理促し、日々の業務にゴールを設定して取り組ませる。	B	・時間短縮の取り組みを職員が意識し、働き方改革が若干進んだ。 ・職員朝会、職員会議など事前に回覧を作成し、各担当が伝える努力を行い、効率化を進めることができた。 ・今年度は、4月から5月中旬まで学校閉鎖の状態であったため超勤時間は短かった。その後は10月が行事の多さから最長となり、11月は10月の8割、12月は7割と着実に超勤時間が短くなっている。	B	・先生からの改善案を収集して会議等で集約することが大切。今までの慣例による「出来る」「出来ない」の判断はあろうが、先生方の負担が偏らないマニュアル、システム構築が必要だと考えられる。	教頭、教務主任	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○教職員の資質・能力の 向上	○教職員の経験や役割に応じ た資質・能力の向上	○自分の資質・能力が向上し たと思う教職員75%以上			・新型コロナの影響は長引き、研修会の中止、教育セ ンターの講座の中止など相次いだ。当初の目標は達 成できない状況であった。 ・校内研の一環として、「北中スタンダード」の形の授 業スタイルを提案する授業を行った。公開授業は進ん でいない。しかし、相互の授業参観をしたり、良い授業 について共有したりしている。 ・前期にマイプランの月ごとの振り返りはできなかった ので中間の振り返りを実施した。 ・9割以上の職員が、自己の資質能力を高めたいと考 えており、実際に87%が資質・能力が伸びたと感じて いる。	B	・webセミナーを活用し、学校関係 以外の社会的状況・ハラスメント研 修・自己啓発に関して積極的に取り 組み環境づくりをして欲しい。 ・各個人が高めるべき資質・能力に ついて、具体的な指標を職員に確 認させてほしい。	B		
								教頭、教務主任		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・健康体づくりにおいては、感染症対策、安全対策は現状の取り組みが効果的である。今後も継続していくことが大切であると考えられる。 ・学力向上においては、情報端末によるSNSやゲームにかける時間の抑制を家庭との協力のもと推進し、学習へ向かわせるように対策を講じていく必要がある。そのうえで、主体性をもった学びづくりを継続することが大切である。 ・職員の資質能力については、個人目標設定において学校目標とのリンクを確認し、全体で向上を目指す部分と個人々で向上を目指す部分を明確にし、学力向上対策評価シートに示したマイプランを分かりやすいものにするによって向上を目指したい。
--------------------	--